

新 秋 剣 連

発行
秋田県剣道連盟
 〒010-0914
 秋田市保戸野千代田町 14-12
 SAKAEビル 2F-B
 TEL 018-883-0680
 FAX 018-883-0663
 E-mail a-kendo@abelia.ocn.ne.jp
 http://akitakenren.com/

第56回全国教職員剣道大会・三位入賞

平成26年8月10日(日) 高松市総合体育館



23年ぶりの団体入賞、後藤選手は2度目の優秀選手に！

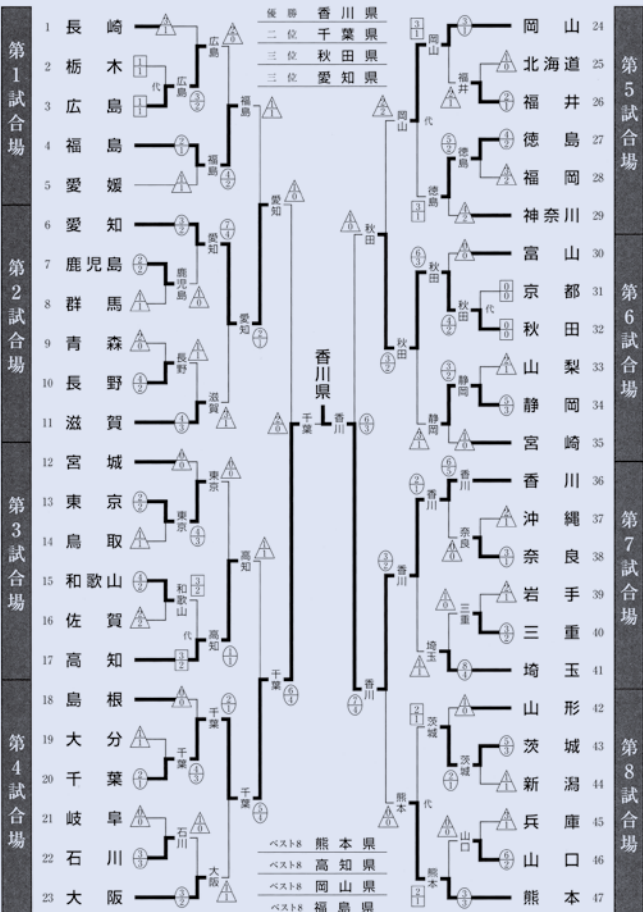
秋田県立能代養護学校 **畠山 雄**

このたび、第五十六回全国教職員剣道大会(平成二十六年八月十日)に出場させていただき、とても光栄に思います。

秋田で就職してからは予選会への出場は何度かありましたが、全国大会に出場するのは初めてでした。今年度は団体戦のみのエントリーでしたが、次があるかないか分からない私にとってはおうれしい限りでした。

団体戦の初戦は京都府で、五人全員が引き分けとなり、代表決定戦での勝負となりました。本大会の代表者の決

団体戦



め方は珍しく、引き分けたポジションの中からくじを引くというもので、次鋒のくじが引かれました。この時、緊張よりもプレッシャーの方が強くなり、頭の中が真っ白になったのを今でも覚えています。決定戦での相手は年齢が六歳も下で勢いのある選手だったので、相手よりも先に攻めようと心がけ、勝つことができました。二回戦の富山県には二〇、三回戦の静岡県には三一一、四回戦の岡山県には二一一の本数差で勝つことができ、準決勝に進みました。準決勝の相手は地元香川県。〇一四で負けたものの、見事三位に入賞することができ、秋田県勢と

しては団体戦の入賞が二十三年ぶりということもあり、喜びと達成感を感じました。
 今大会では、台風直撃での開催や団体戦入賞などの貴重な経験をすることができました。このような経験ができたのも、秋田県の諸先生方からのご指導や応援があったからです。また、供に大会に出場した諸先生方やコーチをさせていただいている剣道部の関係者などの支えや激励もあったからだと感じています。心から感謝し、この経験をこれからの剣道人生に活かせるよう、精進していきたいと思えます。

我が恩師

秋田県道場連盟副会長
神武館師範

和田 満春



私の出生地は京都平安神宮からほど近い、吉田山の中腹の住宅地である。我が

家の筋向いには佐藤忠三先生のお宅があったと聞いている。私には生まれながら右手に少し黒いあざがあるが、下宿の武専の学生が「小手をはめて生まれてきた」と喜んだそう。そして当時八十二歳の高野佐三郎先生から私の母宛に、長男誕生祝いとして「蘭は生まれながらにして香し」と色紙に為書をいただいている。

当時、父勝太郎は武専の助手であった。北海道留萌中学出身。武専二十一期生。次席で卒業と聞いている。中学時代の恩師が武専十二期の秋田県出身の田中忠雄先生。当時の剣道人が憧れた武専合格は負けん気の強い父にとって北海道代表の思いが強かったに違いない。学生時代の激しい切返し稽古、武者修行、京都大会、高名な先生との稽古等々数多く聞いた。正座の位置は成績の序列によって座り、道場に立つ位置は上位の者が中央で道場の端に立つもの

は下位とも聞いた。京都四条通や街で先輩の姿を見つけるや挨拶をしなければ翌日には制裁があったそう。寒稽古が始まるや、前日の汗で凍った稽古着から湯気が道場に立ち昇った。また、小沢武先輩（元東武館館長）との切返し稽古は向い突きに喉が裂けてもよいと思つて連日掛かり、寒稽古の最後には「見どころがある」とほめられた。そして、毎年の北海道への帰省は山形の後輩の池田勇治（元大阪府警師範）宅、そして秋田中学、大館中学の稽古で幾ばくかの小遣いをもたらつて汽車賃にしたそう。

武専卒業後は「国・漢」の教師として地元北海道の小樽潮陵、根室商業の教員をしていたが、剣の道捨てがたく再度武専の研究科に入り、昭和十五年、晴れて小川金之助主任教授から「助手」に任命された。当時三十歳。宮崎茂三郎、佐藤忠三、若林信治、津崎兼敬等、錚々たる教授陣の末席に名を連ねた。将来は武専教授を夢見ていたが、やがて戦争の時代に入り応召、満州・中国と転戦し陸軍工兵大尉として鹿児島で終戦を迎えた。終戦後は渴してやまない剣道の禁止と、武専の廃校があり、悲嘆の中下野し、縁あって秋田の山間部、米内沢高校に職を得るがさぞや忸怩たる思いであつたに違いない。母は秋田の吉井忠次郎（秋田師範学

校、剣道、書道教師）の娘。弟が吉井忠亮（秋田高校剣道師範）。祖父は高野佐三郎先生に師事し、以来、親交篤く、秋田の自宅にご夫妻を招き竿燈見物したり、母が高野先生宅に行儀見習いに行ったり、家族ぐるみの親交があつたと聞いている。母からは「高野の大先生」と晩年まで何度となく聞かされた。手元には祖父と中山博道、高野先生との往復書簡が数十通ある。また内藤高治、山岡鉄舟の書も高野先生との縁で手にしたものと思われる。母が娘時代、高野家の台所で後ろから大先生に「隙あり」と新聞紙で肩を叩かれたそう。また、奥さんに内緒でお菓子を頂いた等々、剣聖と言われた先生と

の楽しい思い出があつたようだ。かくのごとき周りが剣道一家。物心がついた小学四年頃（昭和二十八年頃）には、寒稽古のため朝五時、暗い雪道をそりに防具を乗せ、父と一緒に片道一時間の吹雪の中を小学校の体育館まで歩いた記憶がある。とにかく小・中学校の時は剣道が嫌だまらなかつた。なにしろ逃げる事ができない。さばることができない。友達と遊んでいる最中に父に呼ばれ、自転車に防具を括り付け「稽古に行つて来い」と叱られた。米内沢には祖父と親交のあつた松橋庄造先生、鈴木勝治先生（元国学院大学剣道師範）、木村泰次郎先生と当時七段の先生がいらつしやつた。今思えば品の良い



昭和36年秋田国体終了後に撮影(湯沢市)

剣道をされて、剣道も盛んであったと記憶している。

そしてようやく剣道復活の兆しが
見えた昭和三十年、父は結核と診断
され、当時最先端の手術であったが
ろっ骨を六本失った。それ以来、肺
の機能が低下し体力は落ちたが高校
生には稽古をつけた。今にして思え
ば、重岡昇、黒住龍四郎、津崎兼
敬、佐藤忠三先生等々、戦後の剣道
について有名な先生との書簡の往復
が数多くあった。だが如何せん、地
方に住んでいる事、体力が万全でな
いことが悔やまれたに違いない。後
年私が遠征等で父の先輩、後輩の先
生に挨拶に伺うと大事にされた。中
でも思い出深いのは仙台の堀籠先生
で、父の武専の担任生徒で、「親父さ
んそっくりで懐かしい」とへとへと
になるまで稽古をいただいた。また、
学生時代には秋田の機動隊で若林先
生に稽古をいただいた。竹刀のふり
が大きく、重い竹刀でガンと面を
叩かれた。稽古終了後、父の言いつ
けで秋田駅まで先生の防具を担ぎお
見送りがあった。佐藤忠三先
生には仙台で。大きな山であったが
先生の体に触ることができなかった。
本田先生には湯沢国体の時稽古をい
ただいた。私は先鋒であったが、大
将の本田先生まで持ち込めばチーム
は勝てる周囲の人が言っていたの

を記憶している。小気味の良い担ぎ
技の連続であった。
「担ぎ小手は溜めて腰で打つ」「面
は相手の竹刀を踏んで行け」「小手は
ポク」「上手は向かい突きをしてはい
けない」父とは数えきれないほどの
稽古をしたが今思えばのびのびと打
たせてもらった。父はやや半身に構
え、担いでの二段打ちが得意であっ
た。私も高校時代は担ぎ技が中心で
あった。高校三年の時は監督、選手
として親子で熊本インターハイに参
加。昭和三十六年湯沢での秋田国体
も一緒である。

父は晩年には心臓病を患っていた
が、五月の京都大会を見に行きたい
と体調を整え一緒に上洛した。武専
の同窓会では最長老であったとの事。
かつての下宿を訪ねたり、居並ぶ後
輩の役員と談笑したり楽しそうであ
った。
子供は父の背中を見て育つと言う
が、私が能代工業の校長時代、能代
高校、能代北高の会議ではいつも歴
代校長の父の写真が目の前にあった。
退職後、経法大付属高校講師の時も
校長室で然りである。そして七十歳
を過ぎて昨年図らずも叙勲の栄に浴
したが父と同じ勲章である。

佐藤忠三先生は尺八と書の名手と
聞いた。大学時代の鈴木幾雄師範も
尺八の名手。よって、私も二十代か

ら琴古流を習い師範の免状を頂戴し
た。祖父は書の大家。私も学生時代
は仮名文字、湯沢では蒼龍先生から
顔真卿を習った。父は「雅洛」の号
で俳句。
武専跡地に「左文武の学び跡」
の石碑がある。剣道の恩師は紛れも
なく私の父である。

シリーズ道場紹介 第七回

■なまはげ剣道スポーツ少年団■

●師範又は代表者

柏木 亮

●所在地

男鹿市勤労青少年ホーム

男鹿市総合体育館

若美コミュニティセンター

●本道場の歴史

昭和四十三年、当時、警察官とし
て男鹿警察署に奉職していた高橋民
司先生が中心となり結成される。

その後、竹谷脩先生、棚山修悦先
生へと引き継がれ、数多くの卒団生
を輩出している。

平成十八年に旧若美剣道スポーツ
少年団と合併したことを皮切りとし
て、船川地区だけではなく旧若美町
地区、五里合地区及び北浦地区など
男鹿市全域から入団している。

現在は、柏木亮先生を中心に男鹿
市在住のコーチと北部航空警戒管制

団加茂分屯基地剣道部の協力の下で
指導を行っている。

●稽古日と時間

毎週 水・金曜日
午後六時三十分～八時
毎週 土曜日
午前九時～十一時三十分

●稽古内容・指導要点

基本の習熟を念頭に置いて指導し
ている。



●本道場の特色

男鹿市における剣道人口の裾野を広げるために、平成二十五年に幼年部を開設。また、剣道部がない中学校に進学する中学生を対象に、平成二十二年に中学生部を開設して活動している。



幼年、小学生、中学生が一緒に稽古することにより一体感が生まれ、年齢学年分け隔てなく和気藹々としている。

遠足、夏期合宿、クリスマス会のレクリエーション活動も積極的に開催している。

●指導者数 五名

●門弟数

幼年部 四名

小学生 十二名

中学生 十四名

●最近三カ年の主な試合戦績

全国選抜少年剣道錬成大会

(水戸大会) 出場

第三十一回小林大二郎旗杯争奪小

中学校剣道大会

小学生女子の部 第三位

●会費

団 費 月額 一五〇〇円

後援会費 月額 五〇〇円

■向雲剣錬会スポーツ少年団

●師範または代表者

櫻井照夫

●所在地

能代市向能代字上野越二五番地一
(能代市立向能代小学校内)

●本道場の歴史

昭和四十六年、落合耕太朗先生が



地域の子供たちとスポーツを楽しむという目的にスポーツ少年団を立ち上げ、自身が中学・高校と剣道をしてきたのをきっかけに翌年の昭和四十七年に「東雲剣道スポーツ少年団」として結成されました。

その後、昭和六十二年に「向能代剣道スポーツ少年団」と改名。

平成二十二年に結成から四十周年を迎えるに当たり「向雲剣錬会スポーツ少年団」に改名し、現在は櫻井照夫先生を中心にOB・OGなどもコーチとして、主に小学生指導を中心に稽古に励んでおります。

●稽古日と時間

毎週月曜 (能代市総合体育館)

毎週水曜 (向能代小学校体育館)

毎週金曜 (親武館道場または

アリナス)

午後七時～午後八時半

●稽古内容・指導要点

生涯継続していくために、基本を中心とした指導しています。

普段の生活でも挨拶をしっかりと

できるように指導しています。

●本道場の特色

小学生を中心とした普段の稽古ですが、卒団生はもちろん、地域の中学生や高校生が気兼ねなく出入りできる道場です。

子供たちだけでなく、一般の剣士も汗を流しに来られる雰囲気を作り、

幅広い年代が出稽古に訪れてくださいます。

小学生指導に関しては剣道は勿論ですが、「挨拶」や「礼(感謝など)」にも重点を置いています。

道場に入る時は、大会や錬成会、しいては地域の方々に対して等、自分たちを見てくれている人たち、自分たちを支えてくれている人たちに挨拶・感謝の言葉などを自然と発するように指導しています

また試合用の胴の左側には「常時励声」と記し、いかなる時でも常に大声を張り上げ、自分を鼓舞するようにと指導しています。

監督や指導陣、父兄らが中心になり子供たちに日頃の厳しい稽古の疲れが少しでも取れるようにと年に一、二回レクリエーションを企画しています。

●指導者数

四名 (スポーツ少年団認定員登録指導者)

●門弟数 十三名 (小五～中三)

●最近三カ年の主な試合戦績

第十四回 花下旗剣道大会優勝

(H24 能代市)

第四十一回 平山杯争奪大会優勝

(H24 能代市)

第六十二回 みちのく少年剣道大

会出場 (H26 奥州市)

●会費 三千五百円/月

セルビア剣道日記2

平成26年9月9日

元秋田県剣道連盟事務局長 柏木 幹夫

ご無沙汰をいたしました。皆様には益々ご活躍の様子、県連盟のホームページにて拝見しております。ミ二国での総合優勝、教職員大会での上位入賞、中体連皆さんの活躍など、誠におめでとうございます。今後は、長崎国体に期待がかかりますね。更なるご健闘をお祈りいたします。

九月に入り、こちらもだいぶ涼しくなってきました。この三日ぐらひは小雨模様が続き、夏の終わりを感ぜさせます。今年はセルビアも異常気象のようで、冬には氷点下二十℃とか、夏の最高気温は四十℃にもなるとかおどかされておりましたが、結局この冬にベオグラードで雪が降ったのは四・五日程度、夏も『ウァー暑いな』と感じたのは八月上旬の一週間ぐらひで、エアコンもそれほど使いませんでした。

実は、第一回目の『セルビア剣道日記』を投稿させて頂いた後、二月上旬に広報委員長の芳谷先生から続報を書くようにご指示を頂いておりました。しかしながら、丁度その頃、セルビア剣道連盟とナショナルチームのメンバー選考方法について、意見

の食い違いが発生し、落ち着かなかつたものですから、原稿作成にもう少し時間を下さいとお願いをしたところ、今日まで延び延びになってしまったものです。お詫びいたします。

この意見の食い違いについて、海外における剣道事情の一端を現わしている事例と思われまますので、ここに紹介したいと思います。

ナショナルチームメンバーというのは言うまでもなく、セルビア剣道連盟の代表チームです。この四月に行われたヨーロッパ選手権大会の選手です。セルビア剣道連盟では、昨年新しい制度（ルール）を制定し、これに基づき代表メンバーの一次選考を実施しました。このルールをこちらでは、『ノミネート・システム』と呼んでいるのですが、要するにポイント制です。連盟のホームページから過去一年にわたる個々人の各種大会での戦績を入力できるようにしておいて、年間の合計ポイント上位者から順に二十名程度を代表メンバーの一次選考対象者として抽出し、その中から最終選手を決定するというものです。ですから、どんなに実力があっても、

このシステムで上位に居なければ、一次選考から排除される仕組みです。日本でいうと、オリンピックのマラソン選手の選考を選定した一定の大会の成績結果のみで決定するような制度と言えるでしょうか。

一見、合理的に見えるのですが、小賢しいやり方で、私はこの選考方法は剣道精神に反するものだと思います、強く反対をしました。『個々人の剣道の實力は点数などで評価できるものではない。選手選考は実績も勘案しながら、實力を指導者の目で観て行い、組織決定すべきである。このシステムがセルビアで長く続けば、子供たちを含む若い世代の人たちにとって、剣道は各種大会に参加して点数を稼げばよいというような競技となり、また、指導者たちは如何にして点数を稼げるかを教えるようになってしまふ。長い目で見た将来のセルビア剣道のためによくない。』と主張しました。これは、人間形成を標榜する剣道の理念において、日本人指導者として容認できるものではないと真剣に考え、強く反対したものです。

しかし、セルビア剣道連盟にもそれなりの事情があります。セルビア剣道連盟の主財源は、政府からの助成金であり、日本のように会員から



セルビアチームとともに

の拠出ではありません。政府からお金をもらうにあたって、代表選手を決定するための合理的なルールの明示が求められているとの説明でした。（他にも事情はあるようですがここでは触れません。）

この事例を、ここで紹介させて頂いたのは、決してセルビア剣道連盟を批判するためではありません。海外における剣道の普及・発展は日本の剣道人としては大変に喜ばしいことなのですが、歴史や文化、環境、制度等の違い、様々な条件などによつ



ペーチェエ合宿ホテル前で

て剣道の本質が損なわれてしまう危険性があるということを実態として感じたので紹介しなかったものです。セルビア剣道連盟のある役員は『スポーツ剣道』という言葉を使ってきましたが、この『スポーツ剣道』という言葉は彼自身で考えたとは思えません。このような言葉・考え方が、万が一、広がりつつあるとすれば、懸念を抱かずにはおられません。『日本剣道』という言葉はあっても、『スポーツ剣道』などという言葉は無いとゴシヤギたかった私ではありましたが、皆さんはどうお考えになりますか？

ちよつと悲観的に紹介をしてしま

いましたが、心強いところもありません。それは、最近になって感じているのですが、必ずしもセルビア剣道人全体が、この『ノミネート・システム』に賛成しているようにも見受けられないことです。心ある人達、日本の剣道や文化を真剣に学びたいという人たちは間違いなく沢山いて、その多くはともこのやり方には賛成していないような雰囲気があります。結局のところ、私としては、そのような人たちを信じて、日本の剣道を地道に伝えるしかないんだと思っている昨今です。

さて、上記のような事情で名誉あるナショナルチームのコーチの座を途中辞退してしまった私ではありませんが、さすがにヨーロッパ選手権大会は観たい、ここにやってきましたからには観なくてはいけないと思いました。

今年のヨーロッパ選手権大会はフランスのクレモン・フェラン（パリの南、パリから電車で三時間ぐらいのところ）で四月十一日から十三日までの三日間開催されました。大会前にセルビア剣道連盟のミーティングがあり、会長が『先生（私のこと）、どういう立場で行きますか？コーチですか？』と聞いてきてくれました。この辺は本当に親切なのですよ。私

としては、今更『それではコーチで…』とも言えず、『それじゃ、視察ということで…』と言ったのですが、結局は『サポーター』ということになりましてに連れて行ってもらうことになりました。

セルビア剣道連盟は財政的には厳しいものがありますから、開催地までは大型バスで行きました。選手団は、男子・女子・ジュニアとも団体戦・個人戦へのフル・エントリーのチーム構成で選手・役員二十名、私を含むサポーター八名の合計二十八名が大形バスに乗ってイザ！フランスへと出発したのが、大会開催日の二日前、四月九日の朝四時二十分、まだ暗かったです。途中、休憩タイ



クレモンフェランの教会前にて

ムはあったものの、前泊地のイタリヤ・トリノに着いたのは夜の十時過ぎ、さすがにバスの十八時間はきつかったです。（行きは試合前なので、途中前泊がありました。帰りには直行二十二時間。もうバテバテでした。）この間、セルビア↓クロアチア↓スロベニア↓イタリア↓フランスの順に通過し、クロアチアから先はEU加盟国なので通関審査は無し、セルビアは未加盟国なのでセルビア↓クロアチア間は通関にずいぶん時間がかかりました。開催地のクレモン・フェランは静かでした。また、バスで谷間を走り抜け、下から眺めた残雪のアルプスも印象的でした。

さて、肝心のヨーロッパ選手権ですが、セルビア軍は男女団体とも、ベスト8止まり、三位入賞はなりません。二十チームが参加。個人戦は前日の団体戦で燃え尽きたのか振るいませんでした。

ヨーロッパ選手権大会を観て、他国との違い、特に剣道が進んでいる西ヨーロッパ諸国との比較の上で、セルビア剣道に不足しているものは何かを考えさせられました。結局は、基本が大切なんだという結論に達し、(今回のヨーロッパ選手権でも良い試合内容で、良い結果を残したチーム・選手はやはりしっかりとした剣道をしておりました。)以降、セルビアでの指導では、特に間合いの重要性、足を使った打突を中心課題として進めてきました。ヨーロッパ選手権を観戦して学んだことは大きかったように感じております。

七月・八月はこちらも夏休みのシーズンとなります。学校は二か月の休み、多くの人たちはバカンスに出かけるようで、この期間、各剣道クラブとも練習参加者は半減しました。参加者が多い時期は全員と竹刀を交えることもできないのですが、この期間は熱心な参加者たちと稽古が出来ました。暑い中、継続して練習に

参加した人たちの中には、上達が顕著に認められる人も少なくないように見受けられます。また、この時期、近隣諸国各地で、日本の先生方がやってきて講習会が開催されます。講習会好きの私は、チャンス!とばかりに参加させてもらいました。そんな中で、ヨーロッパ在住の日本人指導者や、日本人講習生、地元剣道人などとも仲良くなる事が出来ました。

大げさに言うと、『剣道が繋ぐ世界の輪』とでも言いましょうか、『交剣知愛』を地で行っているようなところがあります。こんな時は、本当に来てよかったなあーと思います。

十月に入るとここバルカン地域でも剣道大会が目白押しで開催されます。セルビアに昨年十月一日に防具を担いでやつてきた私の剣道日記も、もうすぐ二年目を迎えることとなります。『住めば都』とはよく言ったもので、ここセルビアが日本から飛行機で十三時間もかかる遠いところのような気もあまりしなくなってきたのが不思議ですが、初心を忘れずに努めたいと思っております。

秋田県剣道連盟皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈りいたし、セルビアからの報告といたします。

尚、「セルビア剣道日記1」は、ホームページにて紹介しておりますのでご覧ください。

六段昇段・東北総体 優勝から得たもの



秋元 かおり

平成二十六年、今

年は私が自身の剣道を見つめ直す、大きな二つの出来事がありました。

一つ目は念願であった剣道六段に八回目の挑戦で合格することができたことです。

受験し始めた頃は、準備不足のまま挑戦するなど、正直言って、六段を甘く見ていたところがあつたかもしれせん。しかし、ここ二年ほどは、審査に向けて、剣道の基本を見直すとともに精神面の強化にも取り組んできました。私の心境にこのような変化が現れたのは何故だったのでしょうか。合格することができた今、振り返ってみると、それは周囲の人たちの御指導や励ましの言葉があつたからだと確信しています。失敗するたびに私を元気づけてくれる女子剣の仲間達。構えや発声まで細やかに指導してくださつた秋剣連の先生方。周りの方々がこんなにも熱心に私の審査に向けて気を配ってく

ださっているのに、当の本人がやらないわけにはいきません。私の心はいつの日か「何が何でも合格してやる。」という強い気持ちに変わっていました。八月一七日、花巻市での審査会では、自分の積み上げてきた努力と言うよりも、皆さんに教えていただいた剣道をいかに発揮するかという素直な気持ちで受験することができました。皆さんの後押しがあつての昇段です。これからの課題は六段に相応しい剣道への取組を心掛け、実力を付けていくことと考えております。御指導いただきました皆さんに心からお礼申し上げます。

二つ目は八年ぶりの東北総体優勝を、秋田北高校剣道部OGチームで成し遂げることができたことです。

大将として大会に出場した私にとって、中堅の加藤、先鋒の神坂は彼女たちが高校生の頃から指導してきた北高の後輩です。年齢的には親子ほども差がありますが、互いに切磋琢磨しながら東北優勝、団体出場という目標に向かって稽古に励みました。また、北高剣道部には「北斗会」というOG会があります。卒業生が集まっては、現役時代の部活動の話

題に花を咲かせています。その仲間達からも、「北高チームで国体出場を」との強い思いと激励の言葉を多数寄せていただき、心の支えとすることができました。大会では、苦しい場面もありましたが、チームワークで何とか乗り切りながら、優勝という最高の成績で国体出場を決めることができました。高い目標を持つて努力してきた成果、さらには同窓生チームで結果を残すことができたことは、私の今後の剣道人生でも大きな自信となることと思います。

小学校四年生から剣道を始めた私ですが、ここ数年の稽古が最も充実しているような気がします。それは、仕事を続け、母親として、主婦として？忙しい毎日の中、時間を見つけての稽古は、学生時代の「やらされている」感覚が強かった稽古とは違い、自ら求め、自分のペースで続けることができているからだと思います。さらには、本県成年の女子剣道が遠藤律子先生を中心に、和やかな雰囲気の中、基本に忠実な正しい剣道を目指していることも大きな要因となっています。

今後は、今年達成することのでき

た「六段昇段」「東北総体優勝」を自信として、これまで自分を育てていただいた秋田県女子剣道に恩返しする意味でも、懸案となっている若手選手の育成に力を尽くしながら、自身の剣道をさらに高めていきたいと考えています。

今後とも御指導よろしくお願いします。



七段審査会を終えて



植田 雅人

このたびの審査で七段に合格することができました。途中から数えるのをやめるほど不合格を繰り返しての合格なので「うれしい」というよりも「ほっとした」というのが正直な気持ちです。この七段審査を通してたくさんの方の学ぶことができました。

ここ数年いろいろな場所の稽古会に参加し、先生方に稽古を付けていただきました。県立武道館の稽古会と剣道教室、母校のOB稽古会、また、大学の先輩方が指導されている道場や高校にも呼んでいただきました。練習試合や錬成会の時には中体連の先生方にお世話になりました。天王や大瀧村での稽古会では地域の方々と一緒に稽古することができました。当日は一組目のA番ということで緊張する暇ありませんでした。それがよかったのか自分なりに落ち着いてできたと思います。これもご指導

や激励をしてくださった先生方のおかげと感謝しております。また、いろいろな所で稽古したおかげでたくさんの方々とお会いすることができました。これも私にとって七段と同じくらい大きな財産です。

次に剣道部員に感謝したいと思います。前任校の天王中や現任校の大瀧中の剣道部員との稽古で充実した教員生活を送らせてもらっています。現在部員一名、監督一名の剣道部ですが、彼との基本練習も今回の合格の要因かもしれませぬ。私は数年、学校現場を離れましたが生徒と汗を流す生活が捨てがたく、また現場に戻していただきました。この七段審査を通して普段生徒には「きちんと攻めなければいけない」「弱気になつてはいけない」などと言っていないながら、私自身が何も分かっていないことに気がきました。先生方からご指導していただいたことを生徒に伝えていきたいと思えます。また、これからも生徒と稽古を続け七段にふさわしい剣道を目指したいと思えます。ありがとうございました。

二十六年度六段・七段称号合格者

氏名(所属) 受審地・月日

剣道七段

- 藤田 和憲(秋田市) 岩手・8月16日
- 原田 智徳(秋田市) 東京・11月26日
- 植田 雅人(男潟南秋) 東京・11月26日
- 原田 孝夫(由利本荘) 東京・11月26日

剣道六段

- 鷲谷 翼(男潟南秋) 岩手・8月17日
- 工藤 勇樹(秋田市) 岩手・8月17日
- 植田 秀幸(秋田市) 岩手・8月17日
- 秋元かおり(秋田市) 岩手・8月17日
- 川口 暢晃(秋田市) 岩手・8月17日
- 谷本 淳(大館北秋) 愛知・11月16日
- 鈴木 滋(秋田市) 東京・11月25日
- 鷲谷 和(男潟南秋) 東京・11月25日
- 徳山 淳(由利本荘) 東京・11月25日
- 加藤 健志(秋田市) 東京・11月25日
- 黒澤 長栄(湯沢雄勝) 東京・11月25日
- 岩本 之正(秋田市) 東京・11月25日
- 高橋 清純(秋田市) 東京・11月25日

居合道七段

- 戸堀 義一(男潟南秋) 東京・11月15日

居合道六段

- 阿部 弘生(秋田市) 東京・11月15日

剣道教士

- 高橋 伸友(秋田市) 東京・11月26日
- 佐藤 健司(秋田市) 東京・11月26日
- 及川 正(秋田市) 東京・11月26日
- 佐藤 信明(秋田市) 東京・11月26日

剣道錬士

- 大野 晃(男潟南秋) 東京・11月26日
- 熊谷 隆彦(大曲仙北) 東京・11月26日
- 鶴田浩一郎(秋田市) 東京・11月26日
- 須田恵美子(湯沢雄勝) 東京・11月26日
- 橋本 寛(由利本荘) 東京・11月26日
- 及川 昭(秋田市) 東京・11月26日
- 小助川洋明(秋田市) 東京・11月26日
- 佐藤 良子(大曲仙北) 東京・11月26日
- 山脇 清子(湯沢雄勝) 東京・11月26日
- 富塚 謙一(大曲仙北) 東京・11月26日

居合道錬士

- 小貫 洋二(秋田市) 東京・11月26日

二十六年度各賞受賞者

◎平成二十六年 全日本剣道連盟

〔剣道有効賞〕

- 伊藤 碩士(秋田県剣道連盟相談役)

〔少年剣道教育奨励賞〕

- 仁賀保剣道スポーツ少年団
- 横手市剣道スポーツ少年団

◎平成二十六年 秋田県剣道連盟

〔幼年指導奨励賞〕

- 男鹿市潟上市南秋田剣道連盟：男鹿 B&G剣道スポーツ少年団
- 由利本荘にかほ剣道連盟：石沢剣道スポーツ少年団

- 秋田県剣道道場連盟：修武館
- 尾形 茂

二十五年各賞受賞者

◎平成二十五年秋田県スポーツ賞

〔功労賞〕

- 伊藤 碩士(秋田県剣道連盟相談役)

◎平成二十五年秋田県剣道連盟表彰

〔功労賞・本田賞・小笠原賞・その他表彰〕

- *功労賞 該当なし
- *本田賞 第55回全国教職員剣道大会 個人(幼・義務教育の部)第三位
- 選 手：鷲谷 和(栗田養護学校)
- 第68回国民体育大会剣道競技 少年男子第5位
- 監 督：湯澤 寛
- コーチ：齋藤 淳一
- 選 手：筒井 雄大(秋田南高)
- 国安 和葉(秋田商高)
- 小野 賢也(秋田商高)
- 松山 大晟(秋田南高)
- 齊藤 尚平(秋田南高)
- 星野 泰人(秋田西高)

- 第31回内閣総理大臣杯授与若鷲旗 中学校剣道大会
- 男子団体 第3位 土崎中学校
- 監 督：東海林 斉
- 選 手：田松幸之介

- *小笠原賞 全国高等学校定時制体育大会 第44回剣道大会
- 個人 第三位
- 選 手：前田 真咲(明徳館高)
- 第31回小学生女子の部 個人 第三位
- 選 手：齊藤 芽衣(雄信館内山道場)
- *特別賞 第55回東北・北海道対抗剣道大会 個人戦 優勝
- 選 手：土田 圭助(県警機動隊)

広報委員会からお知らせ

剣道人口の拡大を図るために各都市で行われている大会の結果や、取り組みの状況をホームページに掲載していきたいと考えています。情報がありましたら、記事の内容や写真などをFAX、できれば電子データで送ってください。

広報委員会ホームページ担当 保坂 徹
 (連絡先) 秋田商業高校
 TEL 018-823-14308
 FAX 018-823-14310
 E-mail nosa@cyber.ocn.ne.jp

東北中学校剣道大会を終えて

秋田市立勝平中学校三年 羽生 遥

二年連続個人優勝

私は中学に進学すると共に、勝平中学校剣道部に入部し、約三年間たくさんの経験をさせていただきました。一年生の時は試合や剣道にはあまり関心が持てず、なんとなくその日の稽古をやり過ごしていただけでした。しかし、学年が上がるにつれて剣道の面白さや難しさがだんだん理解できるようになり、精神的にも強くなれた気がします。



二年生の夏、私は初めて「東北大会」へ出場する機会を得る事ができました。その時は一回でも多く勝ちたいという気持で一試合、一試合全力で挑みました。結果「東北優勝」ということになり自分自身信じられない結果で実感がありませんでしたが、他県での錬成会などで今まで話した事のない選手から声をかけられるようになり、東北優勝というその重さをやつと理解することが出来ました。

三年生最後の東北大会、私は「東北大会二連覇」という目標で試合に臨みました。いざ試合が始まると、周りの目を気にしてしまい集中することが出来ず、自分に自信が無くなり、負けるイメージしか浮かばなくなりました。「もう負けてもいい。プレッシャーから解放されたい。」弱気な自分に呑まれそうになったその時、目の前に私が一番尊敬している先輩が現れ声援を送ってくれました。その声援により私は一気にプレッシャーから解放され無事に準決勝、決勝へと勝ち進むことが出来ました。決勝戦は錬成会などでも何回か対戦した事のある広瀬中学校の選手で

した。いつもなら緊張して堅くなってしまうのに、この決勝戦は不思議とまったく緊張せず、逆にいつもより集中力が増して、良い動きをする試合になり優勝する事が出来ました。



「東北大会二連覇」という目標までの道のりは決して楽なものではありませんでした。ここまでこられたのは自分一人の実力ではなく、今まで指導していただいた先生、先輩方や後輩たち、応援して下さいました皆さんそして家族のおかげだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。「東北優勝」というのは私がつつと生きていく中でのかけがえのない宝物になると思います。これからも日々切磋琢磨し、自分を磨いて感謝の気持ちと向上心を忘れる事なく剣道を通じて精進していきたいと思えます。

第38回東北中学校剣道大会

平成二十六年八月五〜六日
仙台市体育館

- 男子団体 優勝 山王中学校
- 準優勝 土崎中学校
- 女子団体 優勝 勝平中学校
- 男子個人 第3位 及川 拓(山王)
- 女子個人 優勝 羽生 遥(勝平)
- 第3位 渡邊 美穂(天王南)
- 第5位 米谷 華(天王)
- 照井 優芽(天王)
- 鈴木しいな(本荘南)

編集後記

いよいよ平成二十七年五月二十九日〜三十一日、日本武道館にて世界剣道選手権大会が開催されます。日本代表の選手の皆さんがどんな試合ぶり活躍なさるのか、今から楽しみでワクワクしています。

今回、柏木先生の「セルビア剣道日記2」を拜読し、先生が指導に携わったセルビアのナショナルチームも応援したくなりました。楽しみが一つ増えたような気がします。

和田先生の「我が恩師」には、たくさんの有名な先生方のお名前が登場し、秋田とご縁がある先生がこんなにもいらつしたのかと驚かされました。

二十七年八月二十二日〜二十四日には秋田県立武道館で第四十五回全国中学校剣道大会が開催されます。秋田県代表チームの活躍を期待し、精一杯応援したいと思えます。また、大会開催に携わる役員・スタッフの皆さんのご尽力に衷心より敬意を表します。

全国から集まる剣士の皆さんと新たな交流が生まれ、「交剣知愛」の輪が広がってゆくことを心から願っております。

編集

秋田県剣道連盟広報委員会

- 伊藤 隆、芳谷 正人
- 保坂 徹、辻 文彦
- 鹿子沢浩美、久慈 隆正